令和４年度第２回高砂市文化財保存活用計画協議会
議事概要

日　　時		令和５年２月８日（水）　１３：３０～１５：３０
場　　所		高砂市役所本庁舎４階 405 会議室
協議の主旨	令和４年度第１回高砂市文化財保存活用地域計画協議会の協議内容	
	高砂市文化財保存活用地域計画（案）について	
	歴史文化基本構想策定後の実施事業について	
	今後のスケジュール	
	その他	

●　➡　協議会会員
○　⇒　事務局

１．議題

（１）令和４年度第１回高砂市文化財保存活用地域計画協議会の協議内容（事務局説明）

○公に進めていることのため、今月中をめどに、地域計画のホームページを作成する予定である。会議資料の一部として、名前を伏せた状態で議事録を公開したいと考えている。それにあたり、皆さまからご了解をいただきたいが、いかがか。（事務局）

●異議なし。（全会員）

➡各会員から了承がとれたので、事務局で対応をお願いしたい。（副会長）

（２）―２　高砂市文化財保存活用地域計画（案）について＜第１章～第２章について＞（事務局説明）

●26 ページに文化財と歴史文化遺産とあるが、高砂市独自で、歴史文化遺産を作り、ふるさと文化財も作ったという理解であっているか。（会員）

⇒まず、文化財は、指定でも未指定でもすべて文化財という言い方をする。文化財といえば、指定されているものというイメージがあるため、未指定を含む文化財という意味で歴史文化遺産を使っている。ふるさと文化財は、高砂市独自で作り、12 年前に制度化したもの。（事務局）

➡歴史文化遺産が、とても意義深いと思う。物的なものと物的ではないもの（ゆかりの場所・昔話など）が、織り交ざって構成されている。例えば、石の宝殿は有形のものとその背景には信仰など様々ある。文化財の分類を越境して、高砂市らしさが点在するからこそ、こういったジャンル分けができると思うし、これはコミュニティとも連動するだろう。（会員）

➡大切な指摘である。兵庫県から、国が文化財と歴史文化遺産の言葉の定義の取り扱いなどについてどういう議論をしているか、情報提供いただきたい。（副会長）

➡辞書的な広い意味での文化財（広義）は、文化を宿している、文化のシンボルであるもの。一方、文化財保護法や県、市の条例に則って指定している文化財（狭義）があり、両方が並立している状況。こ

れまで文化財は、法律によって位置付けられ、地域のなかでの価値や学術的な価値などで評価したものを文化財と呼んでいた。しかし、地域のなかでの評価が難しくなっている現状がある。地域計画の取り組みそのものや、前段の歴史文化基本構想は、文化をとらえる上で文化財の物質的な価値だけでは評価できない部分があり、文化の総体から文化財やまだ文化財の価値を見出せていないが、地域でいわれのある、大事だと思っているものを紐解くことによって、次の時代にどうやってつなげていったらいいか考えるもの。こうしたことが、国は文化財の計画づくりに大事だと考えている。地域の様々な実情があるため、組み立ては現在の指定された文化財なのか、それプラス地域の中でどう受け継がれていくのか、これから受け継ぐべきなのかも議論の対象になる。それらを、これからどう守っていく形をとるのか、計画の中に書き込むようにという議論もある。（会員）

●高砂に限った話ではないが、歴史・文化は、市内だけでなく市外の影響を受けて出来上がっていると思う。高砂の場合、竜山石であれば、市内だけの消費ではなく、日本をリードするような文化遺産である。高砂がリードして各地に広げていったものがあるので、高砂から及ぼした影響などに言及して、価値づけをしていくのもいいのではないか。（会員）

●41 ページの図にあるように、江戸時代からの旧集落が、現在の集落の基本となっていることが大きな特徴の一つになると思う。２つの図で同じような色が使われていて、少しわかりにくくなっている。５色をうまく使い分けるなど表記を工夫し、２つの図がうまく重なるようにＡ３・Ａ４などで１枚に表現して、指定文化財、未指定文化財なども落とし込めれば、第３章につながっていくと思われる。（会員）

⇒次回、修正させていただきたい。流れがスムーズになるように、章立てなども修正したいと考えている。（事務局）

➡41 ページの組み立ては、現行の文化財の体系からはずして考えることによって、高砂らしさを表現できると思う。（副会長）

●昨年度、観光交流ビューローでは高砂町のデジタルマップを作成した。高砂町内の名所、建物などをポイントで示している。ポイントをクリックすると、説明文や動画を見ることができる。今年度は、高砂市全体で作成できないか話を進めているところである。デジタルマップの活用を模索する中で、観光からの視点での作成ではあるが、そこに文化財を落とし込むことによって、観光客や市民にも周知していくことができるのではないかと思っている。（会員）

⇒市は、ホームページで「たかさごマップ」として様々な行政情報の公開を行っている。文化財も、埋蔵文化財包蔵地だけでなく指定文化財の公開を行っているが、周知できていないし、指定文化財の情報しか公開できていない。デジタルマップのような観光系との連携はすぐにはできないが、課題として第 4 章以降の計画に書き込む形になると考えている。（事務局）

➡図書館の活動で、会員が曽根町において、学生が見つけたスポットをグーグルマップ上におとし、そこに動画をはめこんでツアーを実施するなどの活動を行っている。現在、セクションごとにバラバラに動き始めている段階だと私は理解している。次は、それらがつながるタイミングを、どこが、どのタイミングでもっていくかという話になる。文化財の地域計画が、それらをつなぐ、親和性のある計画かもしれない。単に計画を作るのではなく、これらを含めて、事務局には検討願えればと思っている。（副会長）

●神社の祭礼を行うための組織・グループが、地域の自治会、防犯・防災活動などに深くかかわっている。例えば、自治会の役員などは、神社の祭礼を行うための組織・グループから一人ずつ出ていたり、

神社の青年会は青少協の中心的な役割など果たしたりしており、地域の活動での基盤が出来ている。地域は超少子化・超高齢化であるため、地域の希望としては、文化財を広くとっていただいて保存しやすく、活動しやすくしてほしい。（会員）

➡会員のご意見は、どうやって地域を効率的にまわすかというソーシャルキャピタルの考え方である。既存の文化財体系以外の伝統的な資産をどうリンクさせるか、高砂市の特徴として書き足すか、事務局はイメージしたら良いと思う。（副会長）

●昨年、市指定の大玄関の修理を行った。修理前の大玄関は後世に手が加えられていたため、副会長のご指導もあり、昔のかたちで修理を行った。そうすると、思っていたより費用がかかった。市指定のため、市から１/３の補助があったが、全工事費でいうと１/５ほどである。広大な伽藍を維持するには、檀家さん、信徒さんの浄財によらなければならず、文化財を維持することは並大抵のことではない。古民家なども町の景観の一つになっていると思うが、個人で維持するのは大変なことでなくなっているものもある。どうしたら良いかという悩みは、いつも抱えている。（会員）

➡個人や団体が、ある意味では重荷を背負っている。いかにみんなでそれを理解して同じく考えられるか。人が減る中で、こうした負担感をどうするか、計画を作る中で話をしていければ良いと思う。（副会長）

●兵庫県、特に播磨は、指定文化財の中で石造物が多い。それは、石材の産出地があるからである。ところが、それについて、積極的に発言しているところを見たことがなく、それぞれのセクションがバラバラな印象を受ける。この計画の中で、いかにプラスに、トータルに見せるか、考えていただければと思う。（副会長）

●高砂には、近代のなかでもかなり古い産業遺産や雁木などの土木遺産などがあるが、それらの把握は進みそうか。（会長）

⇒地域計画の中での調査は、来年度建造物の調査を予定している。この中に、近代化遺産・産業遺産は含まれるが、土木遺産の調査の考えはなかったのが正直なところである。地域計画の中には取り込めないかもしれないが、十分な調査が出来ていないので今後の課題として取り上げていかないといけないのではないかと思っている。（事務局）

➡市のなかで、どのセクションが、どのように調査が終わっているのか、一覧表を作るのが良いのではないか。（副会長）

⇒庁内委員会を設置しているので、情報収集にあたりたいと思う。（事務局）

（２）―１　高砂市文化財保存活用地域計画（案）について＜第３章について＞（事務局説明）

（３）歴史文化基本構想策定後の実施事業について（事務局説明）

●今後、報告書作成にあたり、写真の入れ替えは行ったほうがいい。白砂青松は、私の勤め先では伝わらず、若者にはイメージが共有できない事実は認識したほうがいいのではないか。白砂青松に限らず、当たり前と思っているものが、すでに当たり前ではなくなっていることを認識し、こうした観点をもつことが計画作りには重要である。それと、こうした計画作りでは、プラットホームやウェブ上などでやっていることを見える化する仕組みを考えてもいいと思う。（会員）

●高砂市は観光面からは、高砂町にスポットがあたり整備なども進んでいる。私は仕事として竜山石に携わっているので、高砂市と竜山石は関係が強く、私の中では高砂市＝竜山石と形づけられている。観光面からしても、阿弥陀地区、生石神社は、市外・県外から多くの人が訪れる場所といっても過言ではない。竜山石にかかわる文化財、石造物なども市内にはたくさんあることから、阿弥陀地区、竜山石を重要視していただきながら、観光面、観光ビューローとしても力を入れていきたいと思っているところである。（会員）

⇒地域計画において、文化庁からの命題として重点区域を設定しないといけない。事務局として、この設定に非常に苦慮しているところで、来年度、皆さまのご意見を伺いながら決めていきたいと考えている。（事務局）

➡重点区域は、1か所だけ選んで他を捨てるという考え方ではない。文化財をどう使うか、どう使えるか、それを考えたときにどの地域が一番投資効果が高いか、文化財を主眼において地域おこしをすると一番適当な場所はどこかということである。（会員）

➡重点区域を設定するときに、エリアとして見せるか、テーマとしての設定するのか、いろいろあるので柔らかく考えていければと思っている。（副会長）

●計画を作る趣旨・目的は、文化財保護法が改正され、活用が強調されているということを常に念頭に置きながら、この計画を作っていくことが重要だと思う。もう一つは、歴史文化基本構想の中で、未着手の部分が多いと言っていたが、なぜ出来ていないのか分析していくことが必要なので、今後の議論に期待したい。（会員）

➡歴史文化基本構想の検証は必要であろう。しかし、時代が変わっているので、すべて踏襲するわけにはいかないだろう。変えざるを得ないが、変え方はそれぞれの時代の人の気持ちを汲んでやっていくことが大切である。（副会長）

（４）今後のスケジュールについて（事務局説明）

（５）その他（事務局説明）

●会員からの文化財の保存活用に関する費用負担の話は、非常に切実に感じた。費用負担の在り方、クラウドファンディングについてこれまであまり触れていないと思うが、他部局との協議を通じて、何らかの方向性が出てきてもいいのではないかと思う。（会長）